

No 8 乱暴な言葉や態度が目立ち、クラスメイトとのトラブルが多い子への対応

小・中学校を問わず、かなり乱暴な言葉や、蹴る・物を投げるなど攻撃的な態度をとったりする子がいます。また、ささいなことが原因で始終トラブルをおこしがちな子もいます。

このような子どもたちは、どのような状況でこのような言動になるのか、よく見極めることが必要です。

(1) 乱暴な言葉や態度が目立つ子

予想される状況

- ・自分の気持ちや思いをうまく表現できない。
- ・注意や指示を受けてかなりイライラしている。
- ・自信のない課題をだされ内心すごく不安をもっている。
- ・自分を守るために攻撃的な言葉や態度で抵抗している。

対応のヒント

- ・自分の気持ちや思いを発散できる場や、きちんと伝えられるよう表現の仕方を教えてくれる人がいると有効です。
(例えば、コーディネーター、養護教諭とか・・・)
- ・言葉で気持ちが表現できるように援助していくことが必要です。(周りの人だれでも・・・)
- ・自己有用感もてるように、何かをお願いしてやってもらう。「できた!」「やった!」と思える経験や、一緒に満足しあえる人を増やしていくことが大切です。
- ・攻撃的な言葉や態度をしなくても、自分の気持ちは分かってもらえるという安心感をもたせていくことが必要です。

<指導のポイント>

安心できる居場所があること

発達障害のあるなしにかかわらず、自信がなく、自分自身に対する評価を低くもっている子どもたちは、小さな失敗も大きく感じたり、何かささいなことを言われたことでも、自分自身をすべて否定されたように受け止めてしまい、自己防衛的に乱暴な言葉や態度で強く出してしまうことが多くあります。

学級の中で、自分の役割・仕事がよく分かるもの(係など)に位置付けられ、友達みんなから認められる機会ができるよう配慮することがポイントです。そのためには、まず、先生自身がその子の学級での居場所を作っていくことが大切です。

(2) トラブルが多い子、キレやすい子

予想される状況

- ・自分の思い通りにならないといらだってくる。
- ・場の状況判断や、相手の立場、気持ちを考えて行動することがとても苦手。

対応のヒント

- ・子どもの気持ちがイライラしていない時に、「どういう時にトラブルになる?」「どんな時にキレやすい?」と考えさせることも一つの方法です。「負けた時」「注意された時」などパターンが見えてきたら、予防の対応も可能です。
(話し方のトーンを和らげる、苦手な友達との距離をとる等)
- ・自分で感情をコントロールすることが出来るようにするために、気持ち(むかつき度)のスケール(レベル)を考えられるように話し合うことも大切です。(別紙資料参照)

<指導のポイント>

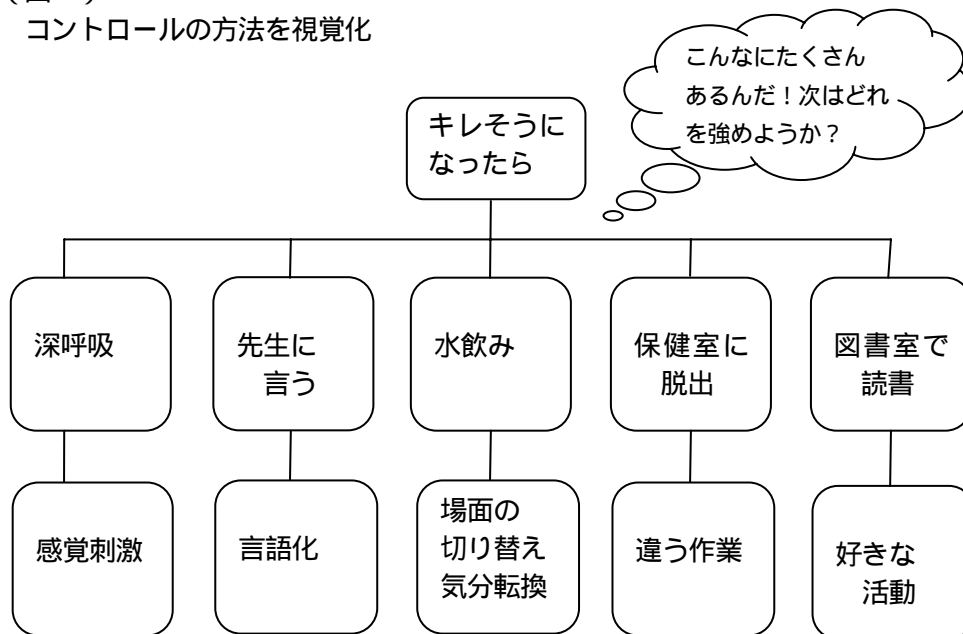
トラブルを大きくしなくて済んだ自分、キレそうになったけれども寸前で止められた自分を、本人も、周りの人も認めていく、また、そう出来たわけを再確認していくことで、感情のコントロールが出来るように指導していきたいものです。



怒りをマネジメントするプロセス

- (1) 怒り始める時を知る
- (2) 怒りに対処する方法を知る (図1)
コントロールの方法を視覚化する。どれなら得策か価値付けをする。
- (3) 怒りの程度を査定する (図2)
表情ポスターに表す。自分の興奮度を数値化(スケーリング化)する。
- (4) 怒りを適切に表現する
アイメッセージ

(図1)
コントロールの方法を視覚化



(図2・3)
気持ち(感情)のスケーリング
感情をコントロールするために・・・
・中程度の怒りも表出できるようにしたい

